



立正佼成会ニューヨーク教会

320 East 39th Street, New York, NY 10016 TEL: (212) 867-5677

E-mail address: koseiny@aol.com, Website : <http://rk-ny.org>

ニュースレター 2022年 2月号



皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。

つい先日新年を迎えたと思いましたが、もう一月が経ち2月となりました。

一年で一番寒いと言われる「大寒」を経て寒さは暫く続きますが、これから春に向かう自然の働きも感じる変化の時でもあります。日の出も日増しに早くなり夕方も年末の時期に比べると暗くなる時間が遅くなり徐々に日が伸びてきています。

ところで皆様は今年の寒中読誦修行はいかがだったでしょうか。NY教会ZOOMでの参加、RKINA主催の全米での修行、個人個人でされるなど、その中で法華三部経全巻を読誦された方、部分的に参加された方などさまざまであったと思います。しかしこの寒の時期に会員が一丸となり読誦修行を通じて身を清め新しい春を迎えるという、何とも言えないすがすがしい年中行事でもあります。

このところオミクロン株という新種のコロナ感染が世界中に広まり、パンデミックとして3年目に入る状況が続いています。WHOでは当面パンデミックが終焉に向かうとは決して言えないと論評しています。今月開催予定の冬季北京オリンピックもどうなるのか、外交的要因も加えオリンピックを通じて世界が一つになるという事の困難さが表れています。

一日も早いCOVID19の収束を誰でもが願うところではありますが、今なお多くの方が亡くなりあるいは入院加療中でもあります。ここに心より亡くなられた方々へのご冥福を祈り、現在加療中あるいは自宅療養中の皆様の一日も早い回復を祈らせていただきます。

今月5日には23年間にわたりNYのRfP国際委員会にお勤めされた杉野恭一さんが日本に戻られます。先月16日のサンデーサービスではそのお別れをする場面があり、杉野さんは挨拶の中で幾度か声を詰まらせ長年の思いをふりかえられ、またこれからの抱負を語ってくださいました。参加者からの真心からの言葉もたくさん披露され心に残るひと時となりました。

今月はその時に私が述べさせていただいたお別れの言葉を今一度文章としてお載せし、杉野恭一さんのこれまでの偉業を称えさせていただきたく思います。

杉野恭一さん送別にあたって

1.16.2022

畠山 友利

杉野恭一さんは2月5日をもって日本に帰国され23年間のNYでの生活を終えられます。日本では今後、本部の幹部養成機関である学林の最高責任者である「学長」という要職を通じ、青年の育成にあたられます。

ここで杉野さんのこれまでのご努力、実績を皆様にご紹介しお別れの言葉といたしたいと思います。杉野さんは群馬大田教会の出身で東京の中央大学に在学中、本部学林の光樹として杉並の養成館に宿泊し法華経の研鑽、修行をしながら大学生活を送られました。

大学卒業後、学林本科生として本部職員に奉職されました。在林中はアメリカ・ウィスコンシン、イギリス・ロンドンに留学し修士号資格を取得され帰国されました。その後スイス・ジュネーブに設置された国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）に日本政府派遣のJPO（Junior Professional Officer）として佼成会本部から出向されました。

UNHCRは難民の保護、支援を目的とする国連機関の一つで、これまで佼成会との協力関係も深く、18年間にわたりベトナム難民の収容、定住支援を小湊教会に隣接する施設で行い、スーダンでのエチオピア難民への半年にわたる医療活動を実施し、これには佼成病院の医師、看護婦が4名派遣されコーディネーターとしてNY教会の藤井貴子も参加され成果を上げました。これに並行してアフリカに毛布を送る運動を通じ、日本全国の会員さんの協力を得て200万枚以上の毛布を、エチオピアをはじめとしてアフリカ諸国を中心に届けることが出来、外務省からの信頼と感謝がよせられました。

こうした実績を踏まえ、本会からも平和活動の一環として国際機関に人材を派遣することとなり杉野さんがその任を果たされたわけです。ちなみに杉野さんの後任として4月にRfP国際本部に赴任される根本さんも同様にUNHCRでの仕事を経験されています。

杉野さんはスイス・ジュネーブで当時UNHCRの代表であった故・緒方貞子高等弁務官の下で仕事をされました。杉野さんは、今は堂々として何があってもびくともしない頼もしさですが、はじめから決してそうであったわけではなくたくさんの体験と努力によって今に至ったわけで、そのエピソードを一つご紹介したいと思います。

着任早々は緊張の連続で、初めて大勢の前でプレゼンテーションをすることとなった時に、何とYシャツの下にお襦をかけ上着を着て、仏さまを念じながら役目を果たしたと聞いたことがあります。また、夜寝る前には必ず英語の本を、声を出して読む練習をするなど今では考えられないような影の努力があったということもある方から聞きました。

ジュネーブの仕事を終え帰国すると、時間をおかず会長先生から次のご指示がありました。それはNYでRfP国際本部のベンドレイ事務総長を支えるという役割でした。その命を受け23年前まだ生まれたて半年の統己君を抱え杉野夫妻はJFKに降り立ちました。

RFPは皆様ご存知のように1970年に開祖さまの提唱で発足し、NYの国連ビルの前に本部事務局を構え今日まで発展してきた諸宗教協力組織ですが、本会も開祖さまを先頭に様々な分野で貢献を重ねてきました。その貢献の一つが優秀な人材を本会から派遣し、世界的な組織の発展を目指すと言うものです。

杉野さんは副事務総長としてその重責を果たされ、ヨーロッパ、アジア、中東、アフリカ諸国を訪れ、ともすると宗教同士がいがみ合い対立する中で、平和への対話・協力を訴え、辛抱強く一国、一国の宗教指導者に会い和解と協力を進め、各国委員会や地域委員会の設立に心血を注がれ、現在では90数か国の加盟する宗教による国際組織までに育て上げられました。

そこには開祖さまが説かれる法華経・一乗精神の世界を目指すという杉野さんの深い信仰と情熱が秘められています。出会う人々に対し豊富な知識や経験を通して理解を促し賛同を得るといふ布教マインドの賜物であります。バチカンでは法皇様に会われ、イスラームや仏教の最高指導者とも対話を深められ、時に難民の方たちや青年とも友情をはぐくみ、まさに開祖さま、会長先生の手足としての大切な役割を果たしてこられました。

NY教会においても英語グループのリーダー役として教えや経験を説き、仏教や法華経の理解を深めた方たちが大勢います。さらに昨年はその講師役をジェイムスにバトンタッチし次代を担うリーダー育成にも力を入れてこられました。

今回の杉野夫妻の旅立ちは私たちにとって苦痛を伴うものでありますが、この機会を通して私たちもさらに努力して成長を図りたく思います。これからのNY教会の成長発展を通じてお二人への感謝のあかしといたたく思います。

杉野さんのこれからのさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

杉野さん23年間ありがとうございました！



合掌

ニューヨーク教会長
畠山友利